

研究課題名	東電福島第一原発緊急作業従事者の保存試料を用いたゲノム解析のための予備調査
研究の対象者	<p>東京電力株式会社福島第一原子力発電所（以下「福島第一原発」）の事故対応作業においては、平成23年3月14日から同年12月16日までに緊急作業に従事した方の中で10 mSv未満の被ばく線量で、疾患（がん、心血管疾患、高血圧、糖尿病、自己免疫疾患、肝炎ウイルスなどの感染症など）の履歴のない健常な男性。</p> <p>また、「放射線業務従事者の健康影響に関する疫学研究」の健診に参加、遺伝子解析に同意いただいたうえで保存されている検体。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	<p>対象者から第1期の調査研究における健診（2016年1月20日から2019年3月29日）と第3期の健診（2024年9月4日から2029年3月31日予定）において保存された既存血球試料を用います。これら試料からDNAを抽出し、一塩基多型（SNP）^{*1}解析で同定された遺伝子型を研究に使用します。また対象者を選択する条件として健診で得られた情報（放射線被ばく線量、既往歴、現病歴）を用います。</p> <p>^{*1}わたしたち人間の「遺伝情報」は4つのATGCという記号であらわされる塩基の組み合わせからなり、99.9%共通ですが、遺伝情報が親から子に受け継がれる場合、ほんの少しずつ違い（個人差）が生じます。この個人差の中で、1つの塩基だけが別の塩基に置き換わっている部分を一塩基多型（SNP）といいます。</p>
研究目的 ・方法	この研究は放射線被ばくに対する高い感受性をもたらす遺伝的要因を検出することを目的とし、過去10年間に保存された試料を用いて将来的に利用できるかどうかを評価することです。その方法としては、同一の対象者の第1期健診と第3期健診で保存された血球試料からDNAを抽出、約70万のSNP測定することにより、第3期DNAと比較して第1期DNAのSNPが正しく同定されるかを確認します。
研究期間	西暦2024年10月1日～ 西暦2025年3月31日
外部への試料・情報の提供	SNPの測定は理研ジェネシスに委託して行いますが、抽出したDNAを匿名化した上で送付し、解析します。安衛研以外での共同研究のための外部への試料・情報の提供は行いません。
研究組織	<p>【研究代表者】 独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所 労働者放射線障害防止研究センター長 大久保 利晃</p>
本研究は労働安全衛生研究所 研究倫理審査委員会で審査を受けて承認され、機関の長の承認を得て実施されます（倫理審査申請受付番号2024N-1-13）。研究は、個人情報保護法ならびに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、個人情報の厳重な保護・管理に十分留意して行います。調べた遺伝情報は原則としてお知らせできません。情報が個人を特定する形で公開されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはございませんのでご安心ください。本研究に同意された後、いつでも同意を撤回することができますので、その場合は、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも対象者様に不利益が生じることはございません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお、公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。	
問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：	
〒214-8585 川崎市多摩区長尾6-21-1	
独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	
労働者放射線障害防止研究センター (研究責任者) 大久保 利晃	
電話番号：044-865-6139（直通）	
フリーダイヤル：0120-865-618（9:00～17:00、土・日・祝日を除く）	